

令和4年度 事業報告

令和4年度は一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の波に襲われた年でしたが、1月中旬以降は減少傾向となり、次の年に向けて段階的に制限緩和が検討されるなど、前向きな空気が出始めた年でもありました。しかし当センターとしては新型コロナウイルス感染症による民間企業からの受注量減少が続いたことに加え、改正高齢者雇用安定法による新規入会希望者の減少や登録会員の高齢化など、シルバー事業が好転するような材料が見出せない状況が続いた一年となりました。また新型コロナウイルス感染症への対処法も確立されない不安から、以前まで開催していた講習会や街頭啓発などのイベントは引き続き自粛せざるを得ず、試験運用としての部分的再開に留まる結果となりました。

これらの状況のもと、当センターの契約金額は 252,854,137 円（前年度比 95.1%）、内訳としては公共 105,195,347 円（前年度比 97.4%）、民間事業所 124,492,574 円（前年度比 93.6%）、個人家庭 23,166,216 円（前年度比 92.9%）となりました。また労働者派遣事業に関しては、自転車自動車駐車場管理業務の指定管理事業者である駐輪サービス株式会社との契約が令和3年度末に終了した結果、契約金額は 27,416,050 円（前年度比 23.0%）の大幅減となりました。なお、独自事業に関しては、令和4年度実績はありません。

令和4年度における重点目標に対しては以下のとおり報告します。

1 会員数の確保・拡大

SMS（ショートメッセージサービス）を活用した連絡の拡大とホームページの刷新によって会員との連携を図るとともに、12月と3月には未就業会員を対象とした単発の清掃業務を試験実施しました。しかし会員数減少に歯止めがかけられず、令和4年度の年度末会員数は516名と、前年度末から58名減少しました。

しかし、携帯電話を持つ会員向けのSMSの普及を図るため、令和4年6月以降メールの発信を何度か行った結果、SMSで参加を呼びかけた3月5日の「大和川・石川クリーン作戦」には47名の会員に参加していただき、メールによる連絡が徐々に浸透していることが確認できました。

また、スマートフォンの操作に不慣れな会員のために、高齢者向けのスマートフォン講習会を柏原市社会福祉協議会の協力のもとで11月と2月に試験

開催したところ、20名の参加者があり、「メールが読めるようになった」等の評価をいただきました。

紙媒体でも柏原市内でのチラシ配布を継続実施するとともに、郵便局にシルバー人材センターの案内文書を置かせてもらい、シルバー人材センターの名前が市民の目の入るよう努めました。

2 就業機会の維持・新規事業の開拓

就業開拓員による民間事業所への訪問は、前年度に続き自粛せざるを得ませんでしたが、自粛中は電話連絡又は年末年始の挨拶など関係が継続するよう努め、2月以降には徐々に会社訪問を行いました。

また未就業者に対する単発の清掃業務を12月に上市公園で2回、3月に史跡高井田横穴公園で2回試験実施し、未就業会員の就業機会確保とセンターとの関係維持を図りましたが、参加数が少なかったため、周知方法や就業場所などの検討課題を残す結果となりました。

派遣事業に関しては事前の予想どおり契約額減少を避けることができませんでしたが、新規発注者から1件受注できたことと、これまで請負業務で受注していたフジキン株式会社の業務を派遣事業に切り替えることにより、就業機会の維持を図りました。

3 安全就業の推進

新型コロナウイルス感染症の波が続き、会員向けの講習会等はほとんど自粛しましたが、健康診断は例年どおり実施し、47名が受診しました。また柏原警察署の協力のもとで安全運転講習会を部分的に実施し、車両を運転している会員の安全運転に関する啓発に努めるとともに、運転免許証自主返納制度の紹介を「シルバーかしわら」に掲載し、高齢化に伴う自動車運転の危険性の意識づけを行いました。また自転車保険の加入についても事務局だよりに記事を掲載し、保険加入の促進と自転車事故に関する注意を促しました。

安全推進員による現場パトロールは今年度も継続し、引き続き就業現場の把握と安全性の確保に努めました。また高低差のある場所での業務に従事する会員向けにヘルメットの新調と、猛暑時の屋外業務に従事する会員の暑さ対策に空調作業服を用意し、現場の安全性向上を進めました。